

41. 障害児者が地域で家事、通院など必要な社会サービスの利用も含め、個別の自立度を高める

○ 田窪 良子 （創作クラブ Grian）

【研究目的】

私たちの生活している伯方島では、障害児者が障害特性に応じて支援を受けながら生活スキルを身につける機会に乏しい。そのため、同居している家族の高齢化や健康問題が生じた場合に、家族の本人に対する負担感が増加し、本人が施設入所に至るケースがある。

この研究では、家族と連携し、障害児者がサポートを受けながら生活に必要なスキルを身につけ、家庭での役割を担えることを目標とし、将来、親・子が自立した地域生活を送るための支援体制作りを研究の目的としている。

【研究の必要性】

島嶼部における成人期の障害者の在宅率は高く、同居している家族のサポートによって、本人の今後の生活スタイルが左右されている。伯方島では、とりわけ 20～40 代の自閉症を始めとする発達障害者や知的障害を伴っていると思われる在宅者は、本人の自立度の高い部分、能力の高い部分が評価されないまま画一的な“障害をもつ成人”として認識されている。そのため、社会参加の機会が制限され、本質的な自立生活が阻害されることは本人たちの不利益と考えられ、そのような状態を避けるためにも、障害特性に応じたサポートを受けながら生活スキルを身につける経験の蓄積は不可欠である。また、同時に家族や地域住民へ、本人たちが蓄積しやすい方法があり、成人になっても習得できることがあるということも周知可能なことから、今回の研究は、地域にも必要なものとして考えている。

【実施内容・結果】

実施の経緯

1) 現状の生活スキルの把握

島内在住障害児者（小学生～40代成人）の家族に対し、家族評価として生活スキルを確認するため「生活状況アンケート」を実施。＊別添資料参照

2) アセスメントと目標設定

アンケートと聞き取りから把握した本人の「伸ばせるスキル」と家庭で担うための「今後の生活のために伸ばしたいスキル」を検討。期間内に取り組み優先順位や時期を決定。

3) 実施計画

自宅外（施設内）実施と自宅内実施について家族・本人・サポーターと打合せ

4) 実施内容及び結果

<ケース1> 30歳男性 知的障害を伴う自閉症

繁忙期に家業の農作業を手伝うことがあるが、自宅内での手伝いは少ない。島外の特別支援学校小中高等部在学中は寮生活で、身の回りのことを行っていたが卒業後、家庭内での役割は少なく、母親の声掛けがあれば行うことはある。

① 洗濯

1, 2か月目	自宅外練習 平均週2回 洗濯の流れ、機器操作、洗剤使用方法、干し方等をサポーターと共にしながら習得 「取り込み」「たたみ」は自宅でも経験があったため、自ら取り込み。
3か月目	自宅外練習 平均週2回、自宅練習 週1回 自宅外練習ではアラームを使用して、スケジュールに沿って行う。自宅練習開始。2回程度で自宅での流れを習得し、後日アラームを取り入れ。 自宅外練習では洗剤の使用量や干し方などをサポーターがフォロー
4か月目	自宅外練習 平均週1回、自宅練習 週1回 家族・サポーター共に見守り程度
5か月目	自宅外練習 平均週1回、自宅練習 週1回 ほぼ自立し慣れてきたものの、タオルケットやシーツ等大きなものについては干す際に注意が必要のため、サポーター見守り継続。

② モップ掃除

自宅練習開始後、洗濯時間を利用して、廊下のモップ掃除を合わせて行うこととした。その際に、清掃範囲に課題があったため、自宅外練習を導入。

1か月目	自宅外練習 週1回 自宅練習週1回 施設内廊下にてモップ使用時に「拭いたところと拭いていないところ」の区別や「隅まで掃除すること」の認識が難しいことが把握できたため、本人にわかりやすい視覚支援としてモップの幅に合わせ養生テープで通過レーンに印をつけ、自宅の廊下同様のスペースから練習。
2か月目	自宅外練習 週1回 自宅練習週1回 準備・掃除・片づけまでほぼ自立して行う。 自宅外練習でスペースを広げながら練習継続。

③ ゴミ出し

試験的に自宅で予め母親が準備したゴミを収集日当日に収集場所へ出すよう伝えたところ、問題なく終えたため、サポーター導入をせず、本人の役割として継続。

自宅外練習として、ゴミの分別練習を行ったところ、リサイクルゴミの仕分けは課題がなく、今後、本人の理解度に合わせた役割の持ち方を検討する。

～結果～

経験を重ねることで、着実にスキルにつながってきている。洗濯は自宅外練習に時間をかけたことが、早期より自宅内で定着し、家族の本人に対する高い評価につながった。何より、本人が楽しそうに練習に取り組んでいる。また、これまで本人に対して声掛けによるものであったが、機器への関心が高いことからスケジュールの明確であれば音での行動の切り替わりが即座に可能であった。

<ケース2> 40歳女性 知的障害を伴う自閉症

20代で通所先での利用者同士のトラブルにより退所となり、自宅生活に至る。そのため、家庭での手伝いを日常的に行っているが、行ったことが家族の要求水準に満たず、結果怒られて終わることが多い。そのため、本人にとっては自宅で何をしても怒られるという思い込みから自己否定へとつながり、気持ちが不安定になることが多くある。その中で、本人が事業所見学の際に聞いた清掃の仕事に興味を持ち、トイレ掃除に取り組むことに決定した。家庭にサポーターが入ることへ同意が得られず、自宅外練習のみ重ねることにした。

～実施内容～

① トイレ掃除

1～3か月目	自宅外練習週1回 トイレ数と掃除の工程の多さ、記憶量の乏しさから清掃していない箇所が多くあり、チェックリストを用いて行う。 サポーターは手順を確認
4か月目～継続	自宅外練習週1回 チェックリストに加えて、サポーターが行っていた清掃後の確認を自ら行う練習を加える。サポーター見守り。

～結果～

すでに自宅で日常的に行っていた家事ではあるが、本人の集中力・気持ちの安定がより確かなスキルの習得に必須であった。本人のモチベーションは高いので、今後も本人の習得ペースに合わせて取り組みを継続し、様子を家族と情報交換を行いながら、スキル習得具合を確認と本人へ評価を肯定的に返すようにしていく。また、家族に対しても本人のできたことの説明を重ねながら、適正な評価へと促す。

<ケース3> 10代男性 知的障害を伴う自閉症スペクトラム

短期大学在学中で来春就職を目標にしている。自宅では積極的に家事を手伝い、家族からの評価も高い。就労準備として始めた飲食店のアルバイトで表出してきた課題を元に、サポートを利用することにした。他の研究ケースとは異なり、生活スキルの自宅外でのアセスメントと社会生活への準備を目的とした。

～実施内容～

月1回アルバイト先訪問 4回

- ① アルバイト先での聞き取りと仕事内容の確認
- ② 清掃・食器洗い等開店・閉店準備をはじめとした遂行度確認、見本提示、復習
- ③ 接客時のマナー、困った時への対応法の練習

～結果～

本人の自己評価は実態とは異なり極めて高かったが、何事にも真面目で取り組む姿勢から総合的評価としては低くはなかった。また、繰り返し注意されることについて、注意を受けた背景と適切な対処法をサポートから説明されると本人は理解でき、即座に気を付ける点が見受けられた。求められる仕事内容・水準のわかりやすい説明があれば業務遂行度が上がると考えられ、本人への伝え方をアルバイト先に提示しながら、仕事の場でのナチュラルサポートが可能になるよう支えていく。

【考察と今後の課題】

当初、家族や地域で障害のある方に対して新たな生活スキルの獲得ニーズは余り高くなかったが、現実的に親の加齢・健康状態と将来の本人の生活像を具体的に考えていくことで、家族の意識の変化があり協力を頂けた。しかし、当初予定計画にあった家庭の都合で延期したものもあり、家族・本人が落ち着いて取り組める状況も必要な要素であった。

今回、理解度・障害特性に考慮したサポートがあれば、経験蓄積は成人期も可能であり、自宅外で習得したことを家庭生活に汎化し定着できることが確認できた。そして、家族の協力が必要なため、将来に備えた本人のできる準備を学習する機会の提供は今後の課題であり、地域のサポーター育成も併せて検討課題である。

そして、自立した生活を目的としたスキルの獲得が家族や地域に必要とされる役割を担うことが可能であるというモデルの足掛かりとしてさらに研究を深めていきたいと考えている。

【経費使途明細】

施設利用費 (集会所利用 計 54日)	54,000 円
人件費 (計 83日)	168,800 円
事務用品費 (コピー用紙、インク、支援資料用文具等)	7,540 円
家電製品費 (洗濯機、ホース、電子レンジ、IH調理器)	58,708 円
生活用品費 (物干し竿、洗剤、ゴミ袋、洗濯用・料理用品等)	23,792 円
合 計	312,840 円
大同生命厚生事業団助成金	300,000 円

生活状況アンケート

記入日：平成27年 月 日 ()

名前： (記入者)

各項目の☆をご本人の現状に合わせて黒く塗って下さい。

☆☆☆☆☆	ひとりでしたことがない	☆☆☆☆☆	声かけ、準備をしていればできる
☆☆☆☆☆	してみたことはあるものの難しかった	☆☆☆☆☆	概ね一人でできる(声かけ・手伝いなし)
☆☆☆☆☆	したことがない、もしくはやってみて難しかったが、手伝えは可能	☆☆☆☆☆	まかせられる

身だしなみ	入浴をする	洗顔をする	歯磨きをする	トイレを適切に使用する	季節に応じた衣類を選んで着る
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
健康管理	体調の不調時には訴える	医療機関を受診する	睡眠は十分取っている	食事は一日三回	生理時の対応をする
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
料理	包丁を使う	ガス調理器を使用する	電子レンジを使用する	簡単な調理をする	使った食器・道具を適量の洗剤で洗う
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
買物	洗った食器を拭く	拭いたものを所定の位置に片付ける			
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆			
掃除	所持金を確認する	支払をする	予算内で買い物済ませる(計算)	買ったものを忘れずに持って帰る	購入物は所定の位置で保管する
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
洗濯	掃除機・ほうき・モップなどで床掃除をする	自分の部屋は片付けている	庭、畑など外の掃除をする	お風呂掃除をする(浴槽、ふた、床)	トイレ掃除をする
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
洗濯	洗剤は適切なものを適量で使う	洗濯機を使用する	洗濯が終わったら干す	乾いたら取り込む	洗濯物を畳んで仕分ける
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
整理整頓	自分の布団を干す	天気に応じて対応する			
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆			
移動	使用したものは所定の場所に片付ける	布団を敷く、たたむ ペットメイキングをする	ごみの分別をする	ごみ出しを適切に行う	
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	
留守番	時計を見て行動する	バスや船で移動する	信号を見て道路を渡る	一人で外出する	車の運転をする
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
留守番	食事は一人でも済ませる	電話対応をする *対応を決めている	来訪者の対応をする *対応を決めている	鍵の開閉(戸締り)をする	家族が戻ってきたら連絡事項を伝える
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
その他	家族が不在の際、困った時に頼る人がいる	地震・火事などの際に避難する			
	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆			

家族からのご意見 (上記以外も含めて伸ばしたい、よくしたいと考えているところなど)